

News Letter

男女の初期キャリア形成と 活躍推進に関する調査

大変だった
就活

社会人生活スタート！

失敗もあった
けれど…

入社 **3** 年目、
いかがですか？

10月に実施される第3回調査もご協力をお願いします

入社1年目から2年目にかけての変化

入社1年時に行われた第一回調査（平成27年）、2年時に行われた第二回調査（平成28年）の両方に回答いただいた女性305人、男性440人を対象とする分析結果をご紹介します。

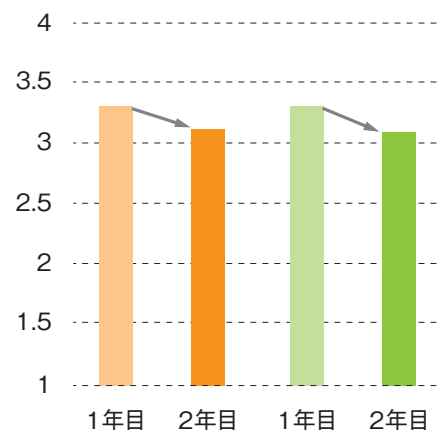


皆さんは、仕事にやりがいを感じていますか？

平均点をみると、1年目・2年目ともに、「どちらかというやりがいを感じている」ようです。ただし男女ともに、2年目にはやりがいが下がる傾向にあります。

※あてはまる＝4点、どちらかというあてはまる＝3点、どちらかというあてはまらない＝2点、あてはまらない＝1点として、平均点を算出

図1 やりがいのある仕事をしている
女性 男性（平均点）

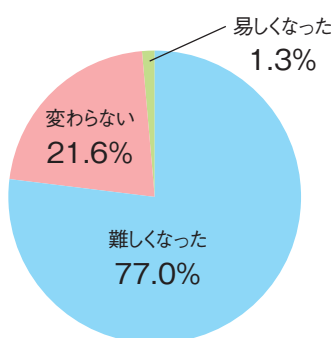


とはいえ、仕事が物足りないわけではないようです。

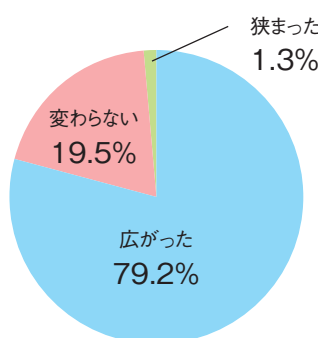
1年目より、担当している仕事が「難しくなった」人が8割、裁量に任されている範囲が「広がった」人が8割、仕事の成果が「より問われるようになった」人が7割です。つまり2年目を迎えて、多くの人が難しい仕事を任せられ、成果も厳しく問われるようになったといえます。

図2 1年前との比較（第二回調査：男女計）

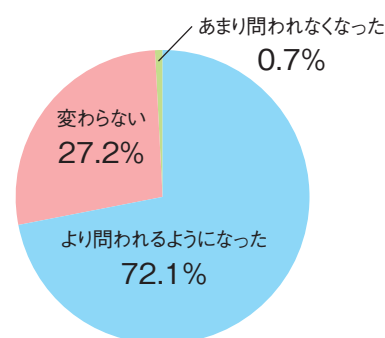
1. 担当している仕事の難易度



2. 裁量に任されている範囲



3. 仕事の成果



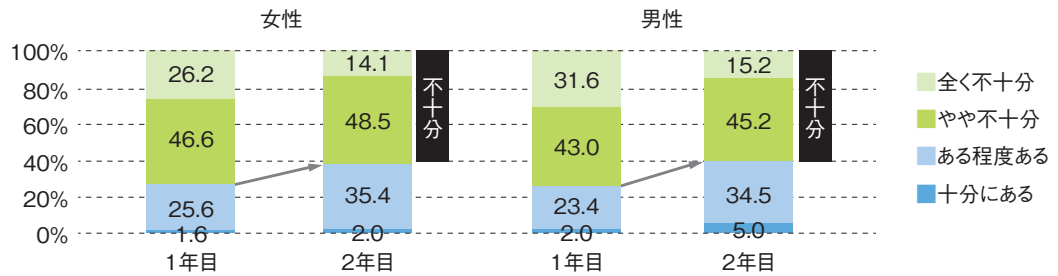
（注）各図の数値（%）は、表示している小数第一位未満を四捨五入してあるので、合計が100%にならないこともある。



では、自信はついたのでしょうか？

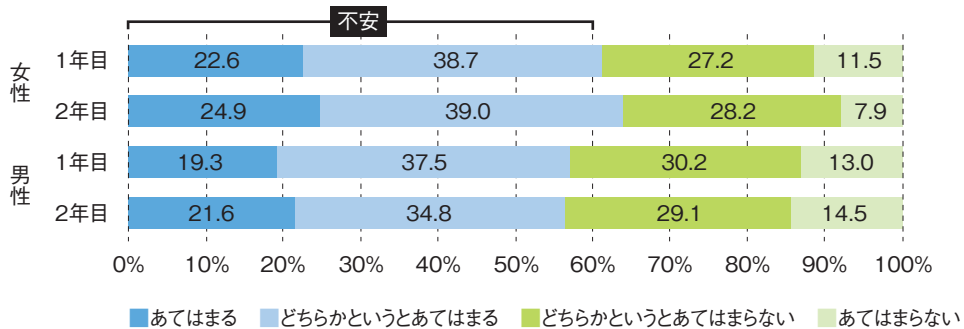
図3は、「担当業務を遂行するための知識・技能」がどの程度身についているか、自己評価していただいた結果です。男女ともに、2年目には「ある程度ある」が増えます。しかしながら「やや不十分」「全く不十分」と、自信がない人が多数派です。

図3 「担当業務を遂行するための知識・技能」の自己評価



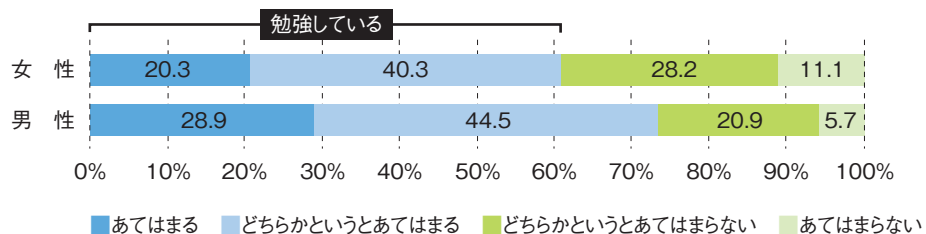
「自分の能力で今の仕事を続けていけるか不安」な人も、過半数を占めています。

図4 自分の能力で今の仕事を続けていけるか不安である



こうした不安に押されてでしょうか。入社2年目になっても、多くの方が勤務時間外に勉強しているようです。

図5 仕事に必要な知識を身につけるため、勤務時間外に勉強をしている（第二回調査）



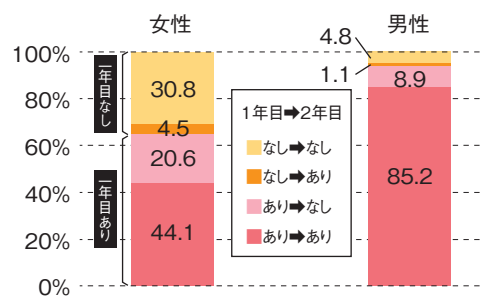


皆さんは管理職になることについて どう考えていますか？

1年目・2年目ともに「管理職を目指したい」と答えた方は、女性44.1%、男性85.2%でした。女性の場合、1年目は「目指したい」と答えたものの、2年目に「目指したくない」に変わった方が20.6%を占めます。

2年目に管理職志向を失った女性に複数回答で理由を尋ねたところ、「仕事と家庭の両立が困難になる」が最多(64.4%)でした。

図6 管理職志向の変化



※第一回調査もしくは第二回調査で、「管理職になることが想定されていない職種である」と回答した者は除外

※あり＝「目指したい」＋「どちらかという目指したい」

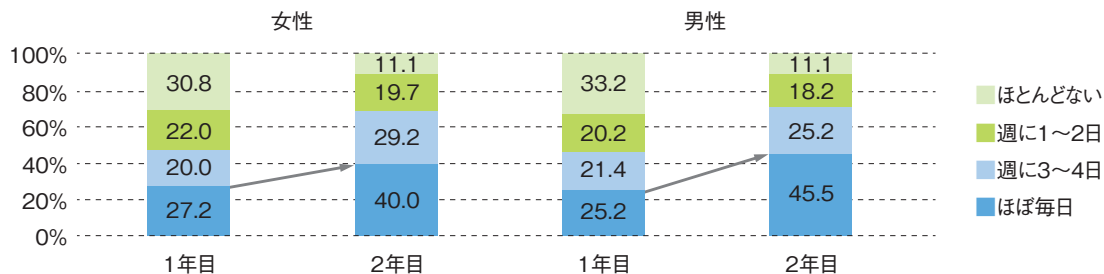
※なし＝「どちらかという目指したくない」＋「目指したくない」



では、「働き方」は変わってきたのでしょうか？

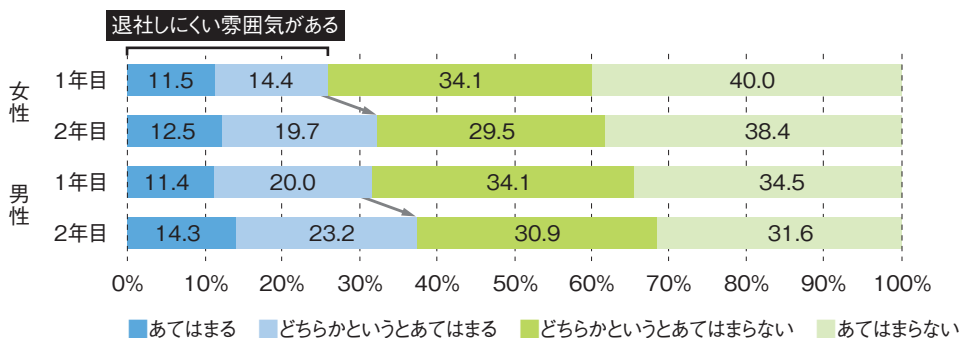
近年、長時間労働の是正に向けて社会的関心が高まっています。入社式では「働き方改革」に言及する企業トップが目立ちました。学生が企業を選ぶ基準としても、休暇の取りやすさや労働時間が重視される風潮にあります。しかし男女とも、2年目には残業頻度が増加したようです。

図7 残業頻度



「業務が終わっても、仕事をしている人がいると退社しにくい雰囲気」が「ある」と感じる人も、1年目より増加しました。

図8 業務が終わっても退社しにくい雰囲気がある

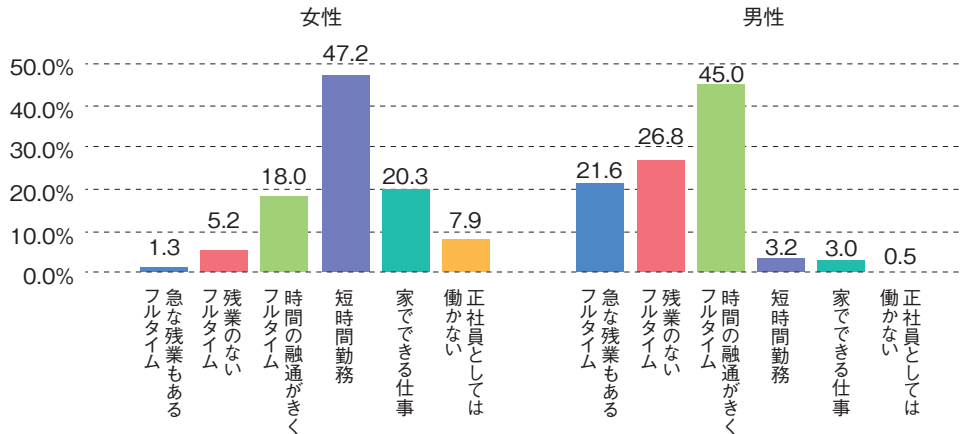




しかし今、日本では多様な生活スタイルを可能にするための「働き方改革」が進められています。

若手社員の皆さんも、育児と仕事の両立を求めていることがわかりました。「就学前の子どもがいるとき」には、女性は「短時間勤務」、男性は「時間の融通がきくフルタイム」を理想とする人が多いようです。

図9 「就学前の子どもがいるとき」の理想の働き方（第二回調査）



これから先、どのようなキャリアを描いていきたいですか？

本調査では、若手社員の皆さんの不安や努力が垣間見えました。つらいこともあったと思います。

けれど将来に向けて、手応えは感じているようです。2年目の平均点をみると、「将来のキャリアにつながる仕事をしている」「仕事を通じて成長しているという実感がある」とともに「どちらかというとあてはまる」となっています。

図10 将来のキャリアにつながる仕事をしている（第二回調査）

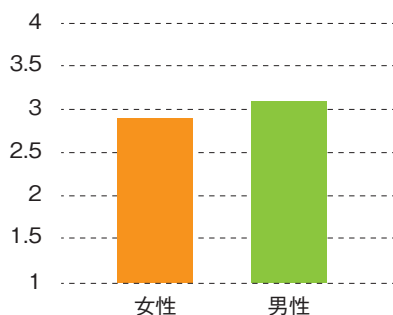
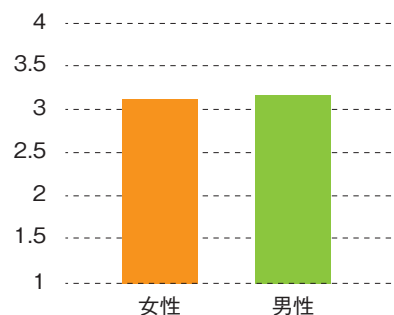


図11 仕事を通じて成長しているという実感がある（第二回調査）



※あてはまる＝4点、どちらかというとあてはまる＝3点、どちらかというとあてはまらない＝2点、あてはまらない＝1点として、平均点を算出

調査結果は、ニュースや新聞を通じて 広く報道されました

NHKニュース：平成28年7月3日

新卒社員
男女とも「家庭と仕事の両立」
重視の傾向



Yahoo！ニュース：平成29年7月17日10時配信

女性社員 なぜ「入社2年目」で
管理職志向を失うのか

新聞各紙に掲載

日本経済新聞朝刊（平成28年7月25日）、東京新聞朝刊（平成28年7月25日）、毎日新聞朝刊（平成29年6月11日、平成29年7月17日）をはじめ、多くの全国紙・地方紙に調査結果が掲載されました。



毎年、記者説明会を開催しています

●「第一回調査」結果について

開催日：平成28年6月13日（月）

参 加：朝日新聞社、時事通信社
日本経済新聞社、読売新聞社

●「第一回および第二回調査」結果について

開催日：平成29年5月23日（火）

参 加：朝日新聞社、共同通信社
産労総合研究所、日本教育新聞社
日本経済新聞社、読売新聞社



調査概要

1. 調査対象

第一回調査 : 調査協力企業17社に、平成27年に入社した新規学卒者(大学・大学院卒) 2137人(女性836人、男性1301人)

第二回調査 : 第一回調査対象者のうち、第二回調査時点での退職者などを除く1931人(女性753人、男性1178人)

調査協力企業 : 正社員が3000人以上(10社)、1000人以上2999人以下(4社)、800人以上999人以下(3社)の大企業で、金融業1社、建設業1社、コンサルタント業1社、サービス業7社、商社・卸業1社、通信・ソフト業2社、製造業4社(本社は、東京15社、埼玉1社、大阪1社)

2. 回答数

第一回調査 : 1258人(回答率 58.9%)
うち有効回答数1258人(女性475人、男性783人)

第二回調査 : 979人(回答率 50.7%)
うち有効回答数975人(女性393人、男性582人)

3. 調査実施期間

第一回調査 : 平成27年10月1日～平成27年10月20日

第二回調査 : 平成28年10月3日～平成28年10月22日

4. 実施体制

外部有識者及び国立女性教育会館研究国際室メンバーからなる「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究」検討委員会を組織し、調査研究を実施した。

第二回調査の実施体制は、下記の通り(※肩書きは平成29年3月31日現在)。

<外部有識者>

安齋 徹 : 群馬県立女子大学教授

大槻 奈巳 : 聖心女子大学教授

大山 瑞江 : 日本経済団体連合会政治・社会本部主幹

高見 具広 : 労働政策研究・研修機構研究員

永井 暁子 : 日本女子大学准教授

※五十音順、敬称略

<国立女性教育会館>

中野 洋恵 : 国立女性教育会館研究国際室長

島 直子 : 国立女性教育会館研究国際室研究員

渡辺 美穂 : 国立女性教育会館研究国際室研究員

人生は山登り



群馬県立女子大学 教授

安齋 徹

28年間にわたる企業勤務では、営業・事務・企画・海外・秘書・人事・研修など多岐にわたる業務を経験。平成24年に大学教員に転身し、閉塞感を打破し未来を切り拓く元気と勇気のある人材の育成に尽力中。

入社3年目の皆さん、仕事は楽しいですか。1年目は右も左もわからなかったのが、2年目は段々慣れてきて、3年目は油が乗ってきたのではないのでしょうか。自分の役割も組織の中での動き方もわかってくると、やるべきことが明確になり、やりがいも高まってきます。公私のバランスも徐々にとれるようになってきたのではないのでしょうか。

一方で、今見えている風景がすべてではありません。人生は山登りに似ています。それも連なる山々の縦走です。低い山の頂上に留まることなく、次なる山（できれば、少し高い山）を見つけて下さい。人によっては転勤がその機会になるでしょう。足腰は鍛えられているので、心配は要りません。自分らしさを発揮して次々と山々の頂きを目指して下さい。

疲れた時には一旦足を止め、峠の茶屋で休みましょう。地図を見直し現在位置を確認したら、顔を上げて周囲を見回しましょう。峠から見える景色を味わい、稜線を吹きわたる爽やかな風を感じることもまた山登りの醍醐味なのです。

編集後記



今、日本では、誰もが働きやすく、やりがいを実感しながら活躍できる社会の実現に向けて「働き方改革」が進められています。仕事の無駄や長時間労働がなくなり、「多様な働き方」が提示される結果、多様な人材が活躍できる職場へ。

このような社会を実現するためには、若手社員のニーズと成長をとらえる調査研究が必要です。そこで本調査では、平成27年に民間企業に入社した男女を追跡しています。



**皆さんの回答は、様々な分野で注目され社会を変える力となります。
10月に実施される第三回調査にもご協力をお願いします。**

～第一回調査・第二回調査にご回答いただけなかった方も、第三回調査からご回答ください～

●本件のお問い合わせ先

独立行政法人国立女性教育会館 研究国際室

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728 TEL0493-62-6437（担当：島／shima@nwec.jp）

★調査の詳細については、<https://www.nwec.jp/research/carrier/index.html> からご覧いただけます。